



やきものが示す時代 (1)

弥生時代末期～古墳時代初頭

調査区中央の河道から東側（右岸）では、弥生時代末～古墳時代初頭の土器が多く出土しています。河川堆積によって形成された微高地の縁や凹地に土器を廃棄していたとみられます。

左写真では、手前に壺（柳ヶ坪型壺）、奥に甕（S字状口縁台付甕）とさらに小さな鉢形をしたミニチュア土器（黒色）が近接して出土している様子がわかります。



やきものが示す時代 (2)

古墳時代中期

古墳時代中期以降の集落では、主に須恵器と土師器が使われていました。左写真のように、須恵器がまとめて廃棄された土坑もあります。器種は杯蓋・杯身・高杯・甕・甗・筒形器台などがあり、5世紀末～6世紀前半とみられます。矢田川をさかのぼった猿投窯東山地区で生産されたものが主体です。



やきものが示す時代 (3)

江戸時代後期

調査区の南端では、尾張藩の下御深井御庭の一部とみられる池や井戸等の遺構が検出されました。池からは瓦が出土し、土坑からは匣鉢や棚板などの窯道具が多数出土し、象嵌のある椀など個性的な陶器類もみられます。これらには刻印が施されているものもあります。

これらは、その実態があまり知られていない御深井焼に関係しているものとして注目されます。



北からみた名城公園遺跡 (4月13日)

愛知県 名古屋市北区 名城公園遺跡 地元説明会資料
令和4(2022)年5月28日(土)



南からみた名城公園遺跡 (4月27日)

名城公園遺跡は、愛知県新体育館建設に伴って令和4年1～6月(予定)に発掘調査を行っています。発掘調査面積は27,000㎡です。

旧河道
(弥生時代後期～古墳時代初頭)

旧河道
(古墳時代～奈良時代)

大溝
(奈良時代～鎌倉時代)

やや大型の竪穴建物跡
(古墳時代中～後期)

石灯籠が出土した池
(江戸時代)

溝
(古墳時代)

井戸
(平安時代～鎌倉時代)

焼けた屋根材?が出土した竪穴建物跡
(古墳時代中～後期)

溝
(江戸時代)

御深井焼等が出土した土坑
(江戸時代後期)

瓦が出土した池
(江戸時代後期)

井戸
(江戸時代後期)

0 5 50m

見学用通路

埋め戻し済み

埋め戻し済み

礎板のある掘立柱建物跡
(古墳時代か)

竪穴建物跡
(古墳時代中～後期)

やや大型の竪穴建物跡
(古墳時代中～後期)

溝
(古墳時代)

- ①古墳時代の溝をみるゾーン
- ②カマドのある竪穴建物跡ゾーン
- ③集落を南からみるゾーン
- ④集落を西からみるゾーン

カマド遺構

古墳時代の遺構

江戸時代の遺構

【1】古墳時代中～後期を中心とする集落遺跡と旧河道

名城公園遺跡では、調査区の中央を南から北西へ抜ける旧河道があり、この両岸では、古墳時代の集落が見つかりました。特に左岸では20基以上の竪穴建物跡や掘立柱建物跡が集中しています。竪穴建物跡には一辺が6mを超えるやや大型の規模ものがあり、これらは有力者の家だったと考えられます。

また一部の竪穴建物跡にはカマドが付属しています。これらは建物の廃絶に伴って壊されることが多く、わずかでも残存しているのは貴重な例です。カマドは5世紀に登場し、古墳時代中～後期に広まります。

建物群の周辺では、旧河道と平行するように全長50～100mの溝が掘られています。どのような機能があったのか、今後検討が必要な遺構です。

【2】下御深井御庭の庭園遺構

名古屋城北側の広大な庭園の一部とみられる池や井戸の遺構が見つかりました。池からは石灯籠や瓦、陶器類に加えて窯道具が多数出土しました。庭園には御深井焼の窯があったとされていますが、それに関連するものと考えられます。



古墳時代のカマド遺構(断面)